

農業環境技術研究所案内（１０）：古書 その１

倭漢三才図会（わかんさんさいずえ）

康熙字典（こうきじてん）

本草綱目啓蒙（ほんぞうこうもくけいもう）

本草図譜（ほんぞうずふ）

農政全書（のうせいぜんしょ）

農業環境技術研究所の歴史は、１８９３年（明治２６年）に設立された農事試験場に始まる。今から１１０年も前のことである。この間５７年の歳月を経た農事試験場は、１９５０年（昭和２５年）に農業技術研究所に改組された。さらに、この組織は２２年の歳月を経て再び変貌し、農業環境技術研究所と農業生物資源研究所と農業研究センターに分化した。今から２０年前の１９８３年（昭和５８年）のことである。そしてこの研究所は、２００１年（平成１３年）に独立行政法人農業環境技術研究所として新たな装いのもとに再出発した。この歴史については、機会あるたびに書いてきた。

このような長い歴史をもつゆえ、当所にはさまざまな古い貴重な書籍が保存されている。今回はそれらの書籍名などを紹介し、そのいくつかを簡単に解説する。まず、それらの古書を列記する。

漢書 欽定戸部漕運全書 卷１～卷９６ ４８冊 附總目 和装本

漢書 欽定戸部軍需則例 卷１～９ 附目録・官銜 ４冊 和装本

漢書 圓鉛総録 卷１～卷２７ 附目録 楊慎著 １０冊 和装本

倭漢三才圖會 １～９ 全９冊 越智宿禰正 書簽

漢書 劉氏鴻書 １～１０８卷 附目録 劉仲達纂輯 ２０冊 和装本

漢書 廣輿記 卷之１～卷之２４ 附目録 蔡九霞 １８冊 和装本

漢書 古今治平略 卷１～３３ 附目録 健子強・徽子美原著 １８冊 和装本

漢書 群談採餘 卷１～卷１２ 維綏甫纂輯 １２冊 和装本

漢書 農政全書 卷之１～卷之６０ 徐光啓 ２４冊 和装本

漢書 欽定四庫全書 總目提要 １～２００卷 附卷首 紀昀等奉勅編 １１２冊

漢書 欽定四庫全書簡明目録 １～２０卷 于敏中等 １６冊

漢書 說郭 １～１２０卷 附目録上・下 陶宗儀纂 上海 郁文博 弘治９年（１５６３）

- 1 2 2 冊
- 漢書 說郭續 1 ~ 4 6 卷 附目錄 陶宗儀纂 4 7 冊
- 古事類苑 神宮司序編 同序發行 明治 4 1 年 (1 9 0 8) 和裝 天部 1 , 2 才時部 1 ~ 8
産業部 1 ~ 1 0
- 古事類苑 神宮司序編 同序發行 明治 3 2 年 (1 8 9 9) 和裝 泉貨部 1 , 2 稱量部
禮式部 1 ~ 1 4
- 古事類苑 神宮司序編 同序發行 明治 3 3 年 (1 9 0 0) 和裝 禮式部 1 5 , 1 6
姓名部 1 ~ 4 武技部 1 ~ 6
- 古事類苑 神宮司序編 同序發行 明治 4 2 年 (1 9 0 9) 和裝 政治部 1 ~ 1 9
- 古事類苑 神宮司序編 同序發行 明治 4 3 年 (1 9 1 0) 和裝 政治部 2 0 ~ 3 0
服飾部 1 ~ 8 動物部 1 ~ 9
- 漢書 玉海 第 1 卷 ~ 第 2 0 4 卷 附目錄 (1) 補刊 康熙 2 6 年 (1 6 8 7)
1 2 8 冊 (1 3 帙) 和製本 詩攷 1 卷 詩地理攷 1 - 6 漢藝文志攷 1 - 1 0
通鑑地理通釋 1 - 1 4
- 漢書 正字通 1 ~ 1 2 集 · 附序 總目 張自烈 清畏堂藏版 4 0 冊 (4 帙)
- 漢書 文獻通考 1 ~ 3 4 8 卷 附目錄 馬端臨著 9 6 冊 和裝本
- 漢書 續文獻通考 1 ~ 2 5 4 卷 王圻纂輯 8 5 冊 和裝本
- 漢書 大學衍義補 1 ~ 1 6 0 卷 附目錄 丘濬著 成化 2 3 年 (1 4 8 7) 3 0 冊 (3 帙)
和裝本
- 漢書 盛京通誌 目錄 · 圖 卷 1 ~ 4 8 1 6 冊 (3 帙) 和裝本
- 漢書 新編事文類聚翰墨大全 甲 · 乙 · 丙 · 丁 · 戊 · 己 · 庚 · 辛 · 壬 · 癸
后甲 · 后乙 · 后丙 · 后丁 · 后戊集 附各目錄 劉應李編 1 2 冊 (2 帙) 和裝本
- 漢書 登壇必究 第 1 卷 ~ 第 4 0 卷 附目錄 王鳴鶴撰 4 0 冊 (4 帙) 和裝本
- 漢書 楊舛菴全集 卷 1 ~ 卷 8 1 附目錄 1 ~ 4 楊慎著 2 4 冊 (2 帙) 和裝本
- 漢書 欽定戶部則例 卷 1 ~ 卷 1 0 0 附目錄 同治 4 年 (1 8 6 5) 4 8 冊 (5 帙)
和裝本
- 漢書 北堂書鈔 卷第 1 ~ 1 6 0 附目錄 虞世南輯 2 4 冊 (2 帙) 和裝本
- 漢書 戶部廣西司奏案輯要 卷 1 ~ 4 光緒 3 0 ~ 3 2 年 京師官書局 4 冊 (1 帙)
和裝本
- 漢書 古今類纂 1 , 2 卷 王世懋編 2 冊 (1 帙) 和裝本
- 珠璣藪 卷之 1 ~ 卷之 8 附目錄 西湖散人編 4 冊 (1 帙) 和裝本

漢書 副墨 1卷～5卷 4冊(1帙) 和裝本

漢書 齋民要術 卷1～卷10 賈思勰撰 4冊(1帙) 和裝本

漢書 十科策略 1～10卷 附年譜 劉文安著 6冊

漢書 書言故事 卷之1～12 附目錄 胡繼宗集・陳玩直解 天順8年(1458)
4冊(1帙) 和裝本

漢書 夢溪筆談 卷第1～卷第26・補卷第1～卷第3 續筆談11編・附目錄
沈存中著 三槐堂藏版 6冊(1帙) 和裝本

漢書 佩文齋廣群芳譜 1～100卷 附目錄 汪灝等編勅奉 姑蘇亦西齋藏版 同治7年
(1868) 36冊

漢書 萬姓統譜 目錄,卷之1～140 凌稚哲編

氏族博攷 卷之1-14 帝王姓系統譜 卷之1-6 和裝本

狩谷掖齋 箋注倭名類聚抄 縮刷10卷 再版 東京 朝陽會 大正10年(1921)
和製10冊

第1卷 天地部 人倫部

第2卷 形体部 疾病部

第3卷 居處部 舟車部 珍寶部 布帛部

第4卷 束帶部 飲食部 器皿部 燈火部

第5卷 調度部

第6卷 "

第7卷 羽族部 毛群部 牛馬部

第8卷 龍魚部 龜貝部 虫豸部

第9卷 稻穀部 菜蔬部 果蓏部

第10卷 草木部

鼈頭音釋 康熙字典 卷之1～卷之40

三極培養新說 榎原寬重 明治14年(1881)

桃洞遺筆 第筆輯 卷上・中・下 第二輯 卷上・中・下

有用植物圖說 解說 卷1～3 目錄索引 完 圖畫 卷1～3

經濟要錄1～7 佐藤信淵 明治31年(1898)

ことばの泉 日本大字典 首卷・卷壹・卷貳・卷參・卷四

校正 地方凡例錄 初編・2編・3編 大石久敬 明治2年(1869)

農嫁業事 1-5 兒島如水

紅茶說 1-4 哥羅尼爾摩尼 明治11年(1878)

萩野由之 日本制度通 1 - 3 萩野由之・小中村義家著 東京 吉川半七 明治 23 年
(1890) 3 冊 和綴本

宍篤児 宍篤児藥小生論 卷 3 - 15 宍篤児著 洞海林疆健卿譯 江戸 和泉屋、
山城屋、須原屋 安政 3 年 (1856) 13 冊

紅茶製法纂要 上・下 多田元吉編

農産製造總論 明治 43 年 (1910)

農家益 天・地・人 大藏永常 享和 2 年 (1802)

農家益 後編 乾坤 大藏永常 文化 7 年 (1810)

農家益 續編 乾坤 大藏永常 嘉永 7 年 (1854)

初瀬川健増 漆樹栽培書 東京 有隣堂 明治 20 年 (1887) 17 折 勸農叢書

初瀬川健増 漆樹栽培書 續編 東京 有隣堂 明治 22 (1889) 47 折 勸農叢書

勸業備考 農具便利論 上・中・下 大藏永常

種樹園法 上・中・下 佐藤信淵 明治 9 年 (1876)

廣益農工全書 1 - 5 宮崎柳條編 明治 14 年 (1881)

球荒濟生蕙苡栽培調理法 完 奈良專二 明治 19 年 (1886)

發明 麥作改良新書 齊藤司 明治 22 年 (1889)

田圃驅蟲實驗錄 全 梅原寛重 明治 19 年 (1886)

續田圃驅蟲實驗錄 梅原寛重 明治 21 年 (1888)

藤井徹著 菓木栽培法 一・二・三・四・五・六・七・八

家畜醫範

解剖學 一 / 卷壹 二 / 卷貳 三 / 卷三

生理學 一 / 卷四 二 / 卷五 三 / 卷六

藥物學 一 / 卷七 二 / 卷八 三 / 卷九

内科学 一 / 卷十 二 / 卷十一 三 / 卷十二

外科学 一 / 卷十三 二 / 卷十四

産科学 一 / 卷十五 二 / 卷十六

土性辨 佐藤信景著・三毛證校字 一 ~ 四

貢難録 上・下

増續大廣益會玉篇大全 卷 1 - 10 毛利貞齋 嘉永 7 年 (1854)

増續大廣益會玉篇大全 卷 1 - 10 毛利貞齋 明治 5 年 (1872)

本草綱目啓蒙 蘭山小野先生口授 板貯衆芳軒之書蔵

金玉 / 四 石類 / 自五至七 山草上 / 八 山草下 / 九 芳草 / 十
隰草上 / 十一 隰草下 / 十二 毒草 / 十三 蔓草上・下 / 十四
水草・石草・苔草・雜草 / 自十五至十七 麻麥・稷粟・菽豆・造釀 / 自十八至二十一
葷辛・滑 / 自二十二至二十三 蓴菜・水菜・芝 / 二十四
五果・山果 / 自二十五至二十六 夷果・味果・蓴菓 / 自二十七至二十九 香木類 / 三十
喬木類 / 三十一 灌木類 / 三十二 寓木・苞木・裸木・服器 / 自三十三至三十四
卵生蟲上、下 / 自三十五至三十六 化生蟲・溼生蟲・龍・蛇 / 自三十七至三十九
魚類 / 四十 介類 / 自四十一至四十二 禽類 / 自四十三至四十四
禽類・獸類 / 自四十五至四十六 獸類・人部 / 自四十七至四十

灌園 岩崎常正著 本草圖譜

山草部 山草部 / 三 卷之四 / 山草類 山草部 / 五
芳草部 / 六・七・八・九
濕草部 / 十・十一・十二・十三・十四・十五・十六・十七
毒草部 / 十八・十九・二十・廿一
蔓草部 / 廿二・廿三・廿四・廿五・廿六・廿七・廿八・廿九
水草部 / 三十・三十一
石草部 / 三十二・三十三・三十四・三十五
雜草部 / 三十六
穀部 / 三十七・三十八・三十九・四十・四十一
菜部 / 四十二・四十三・四十四・四十五・四十六・四十七・四十八・四十九・五十
五十一・五十二・五十三・五十四・五十五・五十六・五十七
果部 / 五十八・五十九・六十・六十一・六十二・六十三・六十四・六十五・六十六
六十七・六十八・六十九・七十・七十一・七十二・七十三
香木部 / 七十四・七十五・七十六・七十七・七十八
喬木部 / 七十九・八十・八十一・八十二・八十三
灌木部 / 八十四・八十五・八十六・八十七・八十八

倭漢三才図会 (わかんさんさいずえ)

これは本邦最初の百科事典である。中国の明の王圻(おうせき)の「三才図会」の編集を倣って、和漢古今にわたる事物を天文、人倫、山地、山水など天・人・地の三部105部門に分け、図、漢名、和名などを挙げて漢字で解説した事典である。動物、植物、鉱物などの絵いりの作品である。

編者の寺島良安(てらじまりょうあん)は、現在の能代市に生まれた。大阪に出て、医学や本草学を修め、医官となり法端位を得た。30年の歳月を費やしてできたこの事典は、正徳3年(1711)

3) に出版されているから、すでに290年の歴史をもつ。

康熙字典(こうきじてん)

これは、中国の清の康熙帝の命により1716年につくられた漢字字典である。約4万7000字が収められている。部首と画でひく字書の形式は、この字典によって完成し、後の字典の手本となった。

本草綱目啓蒙(ほんぞうこうもくけいもう)

小野蘭山(おのらんざん：1729 - 1810年)によって、1803 - 1806年に刊行された全48巻にわたるこの日本博物学百科事典は、日本における最大の本草文献で、後の博物学の発展に大きく寄与した。

本草綱目の「本草」の意味は、動物・植物・鉱物の「学」である。薬効のある物もここに記載されているので、古来の医学とも密接に関連している書物である。

たとえば、「本草綱目啓蒙」の雲母、長石および石英の説明は、次の通りである。

雲母：雲母は、「キラ、ノ根ト云説八非ナリ雲母アル處ニ陽起石ナシ」と述べ、「玉類」に分類し、「紅毛ノ産上品透明ニテ水精ノ如シ此ヲヘゲバ薄紙ノ如クナル」と記している。

長石：石膏の硬いものを長石としている。これは現在の硬石膏のことらしいが、ややあいまいで、現在の正長石をさす場合もあったらしい。

石英：白石英を「本邦ニテ皆水精ト呼フ」としている。石英の「英」は、この場合「花」の意味である。

本草図譜(ほんぞうずふ)

これは日本で最初の植物図鑑で、著者は蘭山の弟子である岩崎常正(灌園)(1786 - 1842年)である。完成は文政11年(1828)である。図画の出来が精密で、彩色も大変鮮明な美しい写本である。図譜を開くと、鮮やかな色が飛び出して来る。この図鑑は植物を主体としたものであるが、その他に岩石や動物などが若干掲載されている。

約2000種の植物が掲載されている。「本草綱目」の分類に従い、山草から灌木について野生種ばかりでなく、園芸種に至るまで登場する。なお本書は、東京大学と千葉大学の図書館のホームページで見ることができる。

農政全書(のうせいぜんしょ)

中国は明代の農書(全60巻)である。選者は徐光啓。農政と水利に関する技術や思想を集成した

書である。全体の構成は、農本・田制・農事・水利・農器・樹芸・蚕桑・蚕桑広類・種殖・牧養・製造・荒政の12部門よりなり、それぞれ以下の内容に分かれている。

[1] 農本門：経史典故・諸家雑論・国朝重農考、[2] 田制門：井田考・歴代田制、[3] 農事門：営冶・開墾・授時・占候、[4] 水利門：総論・西北水利・東南水利・水利策・水利疏・灌漑図譜・利用図譜・泰西水法、[5] 農器門：図譜4巻と解説、[6] 樹芸門：穀部・麻部・蔬部・果部、[7] 蚕桑門：総論・栽桑法・蚕事図譜・桑事図譜・織紵図譜、[8] 蚕桑広類門：木綿・麻苧、[9] 種殖門：総論・木部雑種、[10] 牧養門：六畜・養魚・養蜂、[11] 製造門：常需食品生産、[12] 荒政門：備荒・救荒・本草・野菜譜。

著者の徐光啓（嘉靖41年～崇禎6年：1562～1633）は、明時代の末に内閣大学士にまでなった政治家である。宣教師マテオ・リッチなどと親しく、自ら洗礼を受けてキリスト教に入信していた。「農政全書」は、徐光啓の死後1639年に刊行された。古来の農学書の諸説を12部門に分類・整理して記述した農政関係の総合書である。本書は農業および農政を考察する上の貴重な資料であるだけでなく、中国でそれまでに作成された農書の集大成としての性格ももっている。